

笑顔いっぱい 清里っ子



清里の宝子たちが「笑顔の登校 感謝の下校」ができるように尽力します！！

この度、南関第三小学校から赴任させていただきました、校長の森山資典です。「資典」と書いて「まさのり」と読みます。この読み方はめずらしく、初対面の人にまちがえずに読まれたことはありません。しかし、覚えてもらうのは早いです。荒尾市には、3年前に万田小学校で教頭として勤務させていただきました。また、高校時代からの友人がたくさんいて、とてもよくしていただいています。私にとって、温かいまちです。清里小学校は、初めての勤務になりますが、始業式や入学式での子どもたちの様子を見て、子どもたちは、優しく、素直な子が多いなあと感じました。きっとご家庭であふれるほどの愛情を受け、地域の方々の温かい支えの中で育てられてきたんだと思います。どうぞよろしくお願いいたします。今年度、「確かな学力を身につけ、健やかな心身をそなえた心豊かな子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、89名の子どもたちを17名の全職員で力を合わせて育んでいきます。目標を実現するためにすべての子どもがもっている「宝」を1時間、1時間の授業や日頃の活動、様々な行事を通して磨き輝かせたいと思います。また、認め、ほめ、励まし、伸ばして、できる喜び（自己肯定感）、人の役に立っている自信（自己有用感）を積み重ねていくことで、自尊感情を育てます。そして、子どもたちが「笑顔の登校 感謝の下校」ができるように子どもたちと全職員とで尽力します。笑顔の登校とは、子どもたちが朝目覚めるときに、「さあ、今日も学校に行くぞ」と登校するのが楽しくて笑顔で起きて登校できることです。感謝の下校とは、学校での一日の学びを終えて、「今日も楽しかった。うれしかった。ありがとう友だち、ありがとう先生、ありがとう学校」と喜びと感謝の気持ちを持って下校することです。合い言葉は「チーム清里小」で取り組みます。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞ本校の教育に、ご理解とご協力をお願いします。

本年度人事異動で 4名の先生方が着任されました。転入職員は、森山 資典 校長(南関第三小) 出口 富貴子 あおぞら1組担任(南関二小)、後藤 幸代 事務職員(南関中)、吉村 孝博 用務員(新任)です。 **本年度の職員チーム清里小の17名です。どうぞよろしくお願いいたします。**



3列目 太字が職員名、下段が担任等です。

竹下 吉村 西川 後藤 弘
支援員 用務員 スクールサポート 事務 図書司書

2列目

西村 北野 戸上 宮本 弥山 片山 肥田
6年 用務員 5年 養護 3年 2年 4年

1列目

深浦 笠原 森山 岩本 出口 河内
あおぞら2 教務 校長 教頭 あおぞら1 1年

入学式

入学おめでとうございます

4月9日(金)に穏やかな晴天に恵まれて、12名(男子6名、女子6名)の宝子たちの入学式を行うことができました。新型コロナウイルス感染防止ために、新入学児童とその保護者、学校は職員と5・6年生による例年より寂しい式となりましたが、新1年生は、一人ひとりの名前を呼ばれると、少し緊張しながら、しっかりと「はい」と返事をして、みんな瞳を輝かせていました。校長から「笑顔の登校、感謝の下校」の話をして、朝、決めた時間に起きて、朝ご飯を毎日食べて登校すること、元気のいい挨拶をすること、「ありがとう」の感謝の気持ち等を相手に伝えること、交通ルールを守って安全に登下校することをお願いしました。みんなしっかり聴いていました。総務委員会の子どもたちが代表して、歓迎の言葉を述べてお祝いしました。清里小のみんなでたいせつに育んでまいります。

1年生、緊張しての入場



希望に胸膨らませての開式



児童歓迎の言葉(総務委員)



自分の命は、自分で守る。人の命は、みんなで守る。

～ あの日を忘れない。 熊本地震から5年がたちました。 ～



熊本地震で崩壊した家屋当時

2016年・平成26年4月14日前震、4月16日本震マグニチュード7.3の熊本地震から5年間が過ぎました。関連死も含めて276名の方が犠牲となられ、数えきれないほどのたくさんの家が壊れ、約18万4千人の人びとが避難生活を強いられました。本校では、一昨日の4月14日の朝8時30分に、岩本教頭先生が放送で熊本地震をふりかえるお話をされて、あらためて、犠牲となって亡くなられた方々に心から哀悼の意を表し、被害に遭われた方々にお見舞いの気持ちを込めて、子どもたちと黙祷をしました。あの震災の後、西日本豪雨や今年の7月豪雨による災害が度重なって私たちを襲ってきました。日本だけでなく、世界中で自然災害が頻繁に起きています。いつ災害が私たちを襲ってくるかわかりません。また、災害だけでなく、交通事故や事件の被害に遭うこともあるかもしれません。そして、昨年からは世界中が苦しめられている新型コロナウイルスの感染症は、今も終息していません。心配や不安は尽きません。このような状況だからこそ、一番たいせつな命を守ることを子どもたちと考え、一人ひとりができることに取り組みたいと思います。私は、「自分の命は、自分で守る。人の命は、みんなで守る。」を合い言葉に子どもたちに話しています。私が今まで生かされてきた中で、体験したり、学ばせていただいたことから考えた合い言葉です。命を守るためには、まず、自分自身が事故に遭わないように行動すること、病気にならないように予防を心がけることだと思います。そして、人は一人では生きられず、家族をはじめ多くの人の力や支えを受けて生きているから、家族や近くで生活している人、友だち、先生たちとみんなで声を掛け合い、助け合って人の命を守っていくものだと思います。始業式からこの話をしています。ご家庭でも今一度、熊本地震について話をされてください。そして、日頃から命を守ることを子どもたちと語り合ってくださいと幸いです。

「命どう宝」私が好きな沖縄の言葉です。第二次世界大戦で県民12万2千人以上の方が亡くなった沖縄の人びとの言葉には、はかり知れない思いや願いを強く感じます。まさに命こそが宝です。私たち一人ひとりの命を守り、たいせつにして、生きましょう。特に子どもたちを守り、健やかに育てていきましょう。

